Let's Try セルフメンテナンス
家庭でできるすまいの維持管理

気づいたら早めに手当てを

フローリングの傷を修理！

木の温もりが人気のフローリングですが、モノを落としたり家具などを移動させる時に傷をつけてしまいがちです。放っておくと水が染み込んで腐食する可能性もあり、寿命を縮めてしまいます。小さな傷のうちに早めの補修を心掛けましょう。

フローリングの傷といっても、表面的な傷から、木材がえぐれている深い傷まで、程度はさまざま。ここでは、ホームセンターなどで入手できる補修剤を使って、家庭で比較的簡単にできる方法を紹介します。傷をつきにくくする日頃のお手入れも取り入れて、張り替えのような大掛かりな補修になることを防ぎましょう。

▶ 傷をつきにくくする日頃のお手入れ

掃除機でほこりなどを取り除きます。継ぎ目にたまった汚れは竹串などを使うと便利。次に中性洗剤を含ませた雑巾で拭き、水拭きした後、しっかり乾燥させてから樹脂系のワックスをかけます。半年に1回程度がおすすめです。

表面の傷には…

表面を擦って木目が消えてしまったような傷や色あせした時は、マニキュアタイプの補修剤を塗って目立たなくします。修理後にはワックスがけもできます。

補修剤は数種類の色があるので、床の色に合わせて選ぶ。木目を出すには、色を複数用意して、薄い色を塗った後に木目を描く。必ず目立たない場所で試し塗してから補修する。

へこんだ傷には…

へこんだり、木材がえぐれたような場合は、傷を埋める補修が必要です。専用のクレヨンタイプの補修剤や、木工パテを使って直す方法を紹介します。

木工パテを使って

◀補修箇所の汚れをよく落として乾燥させた後、木工パテを直接絞って補修箇所に塗り込む。ヘラで傷にパテを埋め込み、はみ出した余分なパテはヘラでかき取ってから、濡れた布できれいにふき取る。

◀パテは乾燥すると肉やせするので、一度乾燥させた後に塗り重ねる。木工パテは2色程度しかないため、乾燥し完全に固まった後にマニキュアタイプの補修剤を塗って色を合わせたり、木目を描く。

クレヨンタイプの専用補修剤を使って

◀補修箇所の汚れを取り、乾燥させておく。次に色合わせをする。数色のクレヨンを薄く削ってスプーンなどにのせ、下から着火ライターなどで熱を加えて溶かす。

◀傷の一部に流し込んで色目を確認する。色が合えば、傷の深さに合う分量のクレヨンを調整して削り、溶かして流し込む。

◀盛り上がった部分はヘラで削りとり、やわらかい布で磨く。このタイプの補修剤は床暖房のフローリングには使えないので注意する。

指導：DIYアドバイザー関西

すまいの補修・改善を住まい手自身で行う「DIY」普及のために、関西で指導やアドバイスを行う団体。京安心すまいセンターが開催する「すまいスクール」の講師としても活躍中!

http://ameblo.jp/diykansai/

★ご注意ください!／ここで紹介した補修方法は持ち家の方を対象にしています。賃貸住宅はオーナーの所有する建物や設備を借家人の判断で修繕することはできません。